

**令和元年度 久留米広域連携中枢都市圏
ビジョン懇談会 小分科会（子育て支援ワーキング）
議事録**

(1) 日 時： 令和元年 8 月 20 日（火） 15:30～17:00

(2) 場 所： えーるピア久留米 301、302 学習室

(3) 出席者： <ビジョン懇談会委員>3 名

世利洋介委員、吉岡マサヨ委員、前田久仁子委員

<ワーキンググループ職員>9 名

<事務局>2 名

(4) 次第及び内容：

〔○…委員発言 ●…ワーキンググループ、事務局発言〕

| |
|---|
| 1. 開会 |
| 2. 出席者紹介 |
| 3. 説明事項 |
| <p>テーマ「圏域で連携して取り組む子育て支援とその効果的な情報発信について」 配布資料をもとに説明。</p> |
| 4. 意見交換 |
| <p>○今の説明資料ではどのような課題があるのかわからず、何を議論すればよいのか見えてこない ので、何かしら課題の説明があった方が話が進むと思います。</p> |
| <p>●それでは現在の事業の課題ということで若干補足をさせていただきます。</p> <p>① 病児保育事業 施設数少しずつ増え大体充足してきたと思うが、インフルエンザなどの感染症流行時、申し込みが集中しキャンセル待ちが多くなります。その対応が課題といえます。</p> <p>② ファミリーサポートセンター事業 見守り会員がなかなか増えないこと、会員の地域偏在から需要と供給のマッチングが難しい状況があることが課題です。</p> <p>③ 一時預かり事業 施設の方の自主事業ということもありますが、実施を計画していても一時預かりに対応できる保育士不足から対応できない施設が出てきていることが課題です。</p> <p>④ 発達支援事業 利用者が年々増加傾向にあり、訪問療育や巡回相談を取り入れてきてはいるが、利用者増に十分対応できているのかが課題です。</p> <p>⑤ 地域子育て支援センター事業 実際、支援が必要な方が来所できているのかという課題があり、訪問事業も行っているが、ご相談されても訪問まではという方もおられて、支援が必要な方にこういう施設があることが伝わっているのか課題と思っています。</p> |
| <p>●当町では、ファミサポは会員登録が少なく、利用者も少ない状況です。また、夏休みなどの学 童保育の登校前預かりや見守り会員の自宅以外での見守り等の要望も出ており、苦慮しています。 会員を増やす努力をしていく必要があります。今のままでニーズに応えられているのか、課題と 考えています。一時預かり事業は、広域連携の対象事業として評価できるのか難しいと感じてい るところです。発達支援事業については、久留米市に在住の方の対応で手いっぱいということ、</p> |

大木町でもニーズは高いのですが利用はなかなか難しい状態で、他に頼んだりしています。すべての相談とは言いませんが、広域連携事業であるなら、何かしら圏域市町も利用できるように検討をお願いしたいと思います。

●ファミサポについては、以前からニーズがあることは聞いていましたが、見守り会員数、預かり施設の安全性等の課題のクリアが難しい状況もあって実施できていない状況もあります。課題をどうクリアできるか、ル・バトーさん等と協議させていただきながら検討したいと考えています。発達支援については、利用者が増えてきている状況の中で、もう少し圏域の方からの相談に対応できるような体制がとれるかについては検討したいと思います。

○課題については適切に挙げていただいたと思います。課題として大きかったのは、ファミサポ事業で、以前、私が司会を務めた会議でもうきは市でサブリーダーが見つからないため活動が緩くなっているという話がありました。マンパワーの問題が大きいのだと思います。これから20年、30年を考えると人材の確保、それをそのまま維持できるのか、何らか手立てがあるのではと思いますが、皆さんがマンパワーについてどのように考えているのか教えてほしいと思います。

●マンパワーの確保については、ひとつは専門職、特に子育て分野では保育士の確保が必要になっています。少子化ではありますが、保育ニーズは増えているという現状があるため、保育士確保策として様々な取組みをしております。

●一時預かりのところでも出ましたが、一時預かりに従事させられるだけの保育士の余裕が現場の方ではなくなっている状況です。ご承知のとおり、待機児童が54人、入所保留児童が320人程おりますので、まずそちらの受け入れを事業者に対してお願いしている状況でございます。結果的に一時預かりに従事する保育士が不足します。保育士確保策は、待機児童解消のために取り組んでおり、例えば、就職斡旋事業、雇用補助、潜在保育士への復帰給付金などを実施しています。ただ、今一番の課題と思っているのは、大都市圏との給与格差、国が決める法定価格ですが、福岡と10%違います。特に若い保育士は都会に出て行ってしまいます。こういう根本的なところに何らか対策がとれないか考えていますが、財政的な問題もあり、今のところ取り組めていません。先の話となりますと、現在、次期保育プランを検討しているところでございまして、今後のニーズの推移を見ながら必要な施策を打っていきたいと考えています。

●今の状況からすると、ニーズをすべて満たすことは可能かということ、かなり難しいと思います。本当に必要な方に本当に必要なサービスを考えないといけない、場合によっては選別などもしなくちゃいけない時代になってきていると感じているところです。

●確かに共働きも増えている状況の中で、どこまでニーズに対応できるのか、また、どのような形で対応するのか、考えないといけないと思います。例えば、必ず病児保育なのか、例えば企業の方でのワークライフバランスの推進など、様々な方向から考える必要があると考えます。事業を実施するためにはマンパワーも必要です。子育てボランティアに入ってもらわなければ事業ができない状況もありますが、養成講座を公募しても参加者がなかなか集まらない中、どうやってサービスや環境を整えていくか、課題と考えています。

○保育士不足が悪循環の一因になっていると思うので、個人的には、広域で予算があるなら、新しくなる方に何らか福岡市並みの給与を出せば良いと思います。わざわざ福岡市に通っている若い保育士が結構おられますし、保育士は年齢よりも資格なので、うちの会員もファミサポ事業よりも、保育士が足りないから働きに来てと言われたら、皆さん仕事に行かれます。支援員の講座においても、学童や保育園等で仕事になればということで受講されていて、有償とはいえ、まるまるボランティア感覚の事業では、協力してくれる保育士の確保は難しいです。10月の無償化

| |
|--|
| <p>にもファミサポは対象となっているので、そこもすごく困っているところです。</p> <p>ファミサポは、電話して登録して預かる人に会ってから、さらに有料という、なかなか敷居が高いかなと思います。ただ、久留米市はひとり親や生活保護世帯などには、所得制限はあるものの利用助成制度がありますが、広域の他の市町は持ち出しになるのでなかなか難しいです。どうしてもサービスが必要な方には、利用助成は良い制度と思うので、ぜひ広域化の検討をお願いしたいと思います。</p> |
| <p>●子育てが厳しい家庭への支援、子育て環境が整わない家庭も増えてきている状況ですので、そういったところの支援等、様々な事業を考えていく必要があると思います。</p> |
| <p>○必要な人に必要な情報がなかなか届かないという点ですが、各自治体には民生委員、児童委員がいらっしゃると思いますが、何らか貢献していただけるのではないのでしょうか。福祉の観点から、この情報周知に関してどのようなサポート、配慮をなされているか教えてほしいと思います。</p> |
| <p>●民生委員、児童委員の方々は、地域で困っている子育て家庭を家庭子ども相談課と連携して見守りをしたり、親子で集える場の提供をしていただくなど、やっていただいております。</p> <p>情報がなかなか届かないという課題につきましては、久留米市では、子育て支援に携わっている人たちに、ライフステージに応じてこういう支援がありますよという冊子を作成してお渡ししております。困っている家庭に紹介していただくなど、それが生かせればと思います。ただ、地域で支援制度が異なることから、広域での対応についてどこまでやれるのかは、まだ見いだせていないところです。</p> |
| <p>●うきは市では、子育てガイドブックを作成し、小学校、保育園、幼稚園等に配布しています。また、HPにも掲載しています。子育て支援センターは2か所ありますが、そちらのHPにも載せていただいています。利用者からセンターを利用できない人たちがいるのではとの声が上がっており、そのような要望も受けて情報発信しています。また、うきは市には子育てボランティアサークルが一団体あり、昔から「菜の花さん」と呼ばれて、よく利用されています。ただ菜の花さんも高齢化が進んでいます。昨年、その団体から「私たちの後につながる人たちを作ってもらえないか」との要望がありました。9～10月に講座を開催することになっていますが、興味を持つ人は少ないようで、現在申し込みは20人枠で6人です。どのように引っ張っていくか、なかなか敷居が高いと思うので、口コミで横の幅が広がればと期待しており、今すぐボランティア等に繋がらなくても、ゆくゆくは人材育成に繋がればと思っています。</p> |
| <p>○情報発信に関連して、本当に必要な人に届いているかについてですが、私が大木町に越してきたのは4月ですが、行政手続きをしている時に「久留米ひとり親サポートセンター」のLINE@の登録のQRコードが目に入りました。興味があったのですぐ登録しましたが、そこでのやり取りというのは、こちらがアクションを起こさないと帰ってこない。せっかくLINEをしているのなら、子育て世代の親がLINE@を使うようになれば、情報を定期的に発信していけます。LINE@は個人対応もできるサービスなので、個人相談も対応できます。子育て世代はLINEをほとんど使っています。広報紙や刊行物には、必ずQRコードを掲載しておくなど、この機能を上手に活用してはどうでしょうか。正直、現役で3人子育てしていると、「行く」ということ自体が大変です。とりあえずLINEで相談してみるとか、また、マッチングにも活用できるのではと思い、提案させていただきました。</p> |
| <p>●SNSや、今の子育て世代のニーズなどをもう少し的確に把握してやっていく必要があると思います。</p> |
| <p>●大木町は今年の4月から、支援センターで公用携帯を持つようにしました。今のお母さん方に</p> |

| |
|---|
| <p>はLINE が良く、要注意の方などに対してピンポイントでLINE 交換し、情報発信しています。LINE はホームページ等と違い、日常の中で使われており、今の時代に合っていると思います。</p> |
| <p>●大刀洗町では、子育て支援センターでLINE 登録をして貰って、日曜日の昼に発信しています。2年半ほど経ちます。最初は支援センターの情報だけでしたが、他課の子育て関連の事業、マルシェ情報などを発信しています。LINE が個人のやり取りもできるとは知らなかったので、少し探ってみたいと考えています。また、子育て情報誌は配布していますが、ホームページには載せていません。皆さんが見られる状態ではなく、足りていないと思います。</p> |
| <p>○子育て世代は実は、子育て情報などのニーズに対しての対応、そのあとに続く地域活性等、この世代の人は宝の山となっています。それだけに限らない情報発信ができる層と繋がっておくことは、ポテンシャルを考えると宝です。</p> |
| <p>●発達支援事業で30年度は幼研全体で13,000件の利用があったと説明がありましたが、久留米市の子どもが優先と思い、積極的に情報発信していませんでした。</p> |
| <p>●優先順位はありません。相談にこられたら、そこからがスタートです。相談は断っていません。まずは電話をお願いします。今年も大川市から1件相談がありました。</p> |
| <p>●ちなみに発達支援の情報は保護者の同意が取れたら、町の方に返していただけるのでしょうか。そうしないと小学校との連携等、情報がないままに行ってしまうことになってしまいます。紹介しても何をしているか分からないと大丈夫かなということもあります。その辺までできるともっと良いと思います。</p> |
| <p>●現在、時期的に就学相談をしています。保護者に同意書をもっているため、就学相談時に情報は渡すと思います。ご安心ください。</p> |
| <p>○幼児教育研究所は、巡回相談専門医を配置し、巡回相談の業務をお持ちだということですが、これも市内だけでなく広域の視点でも大丈夫ですか。</p> |
| <p>●おそらく久留米市だけで手いっぱいだと思います。年間300件ほどありまして、そこまで余裕があるかなという感じがします。</p> |
| <p>○利用が年13,000件、それも増加しつつあるとのこととびっくりしました。申し込んで実際に対応してもらうまでに2か月という話を聞きます。長いなと思いましたが、それでも努力されているのですね。</p> |
| <p>●医師が常駐する前は、半年待っていただいていたいました。1~2か月でもかなり頑張っている状況です。</p> |
| <p>●大木町からの問題提起で、広域に馴染まない事業もあるとのことでした。その辺をもう少しサゼッションしていただければと思います。</p> |
| <p>●子育て環境にかかる制度はめまぐるしく変わっている状況です。例えば子育て世代の包括支援センターを立ち上げなさいとなっていますが、その中で産前産後ケアというものがあります。大木町には対応できる医療機関がないので、そういうケアも広域で対応していただけると、大木町が取り組むときは助かりますので、お願いできたらと思っています。</p> |
| <p>○結婚、出産、産後、育児、子育てと一括して対応が必要だと思います。一自治体では自己完結できないということですので、広域の視点で、より効率的であるならば、次年度ぜひ視野に入れていただければと思います。</p> |
| <p>●結婚から子育てまでをサポートすることは必要であり、できることは実施していきますし、これは難しいなというところがあれば、今後協議させていただいて、またご提案をさせていただきます。</p> |

| |
|---|
| たいと思いますので、よろしく申し上げます。 |
| ○マンパワー不足が議論になると想定して、他の連携中枢都市圏でどのような取組みがあるのか調べました。一件だけ、倉敷市都市圏では、保育士保育所支援センターを設置運営しているということです。保育士交流会を月1回開催して保育士の離職を防止、もう一つは保育士の研修を開催し復職支援を実施しており、参加された希望者は全員復職されたとのことでした。ご紹介しておきます。 |
| ●久留米市の方では現在、設置しています。 |
| ○それもまた広域の視点で検討していただければと思います。 |
| ●それでは、進行を事務局にお返しします。 |
| 5. その他 |
| ●ビジョン懇談会全体会は秋ごろ開催予定です。 |
| 6. 閉会 |